

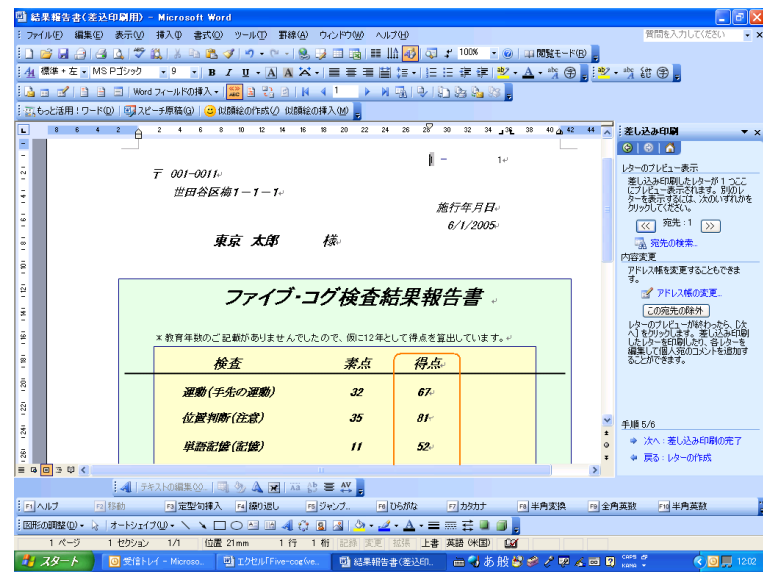
入力フォーム

採点した得点を入力するためのエクセルのフォームです。入力すると、自動的に偏差値とスクリーニングのための総合評価が計算されます。

名簿ID	氏名	施行年月日	性別	生年月日	教育年数	郵便番号	住所	方書	特記事項	運動	並
1	東京 太郎	2005年6月1日	1	T13.2.13	111-1111	東京都板橋区梅町1-1-1	302号			32	
2	東京花子	2005年6月1日	2	S12.2.19	10132-1342	東京都世田谷区桜坂2-4-1				36	
3	世田谷 一郎	2005年6月1日	1	T12.5.13	18142-2244	東京都世田谷区緑町3-5-2-124				33	
4	山田美代子	2005年6月1日	1	T12.5.13	18145-6723	東京都世田谷区倉林4-2-18				33	

報告書作成フォーム

エクセルデータを差し込んで検査報告書作成するためのワードのフォームが用意されています。右は報告書の解説書です



ファイブ・コグ検査の結果報告書の解説

この解説では、ファイブ・コグ検査結果報告書の検査の見方と、認知症にならないためにどんなことをしたらよいかを述べておきましょう。

ファイブ・コグでどんな脳の機能がわかるの？

ファイブ・コグの検査では、運動の検査は、手先の運動機能を、他の検査は、それぞれ別の機能、記憶、注意、言語、視空間認知、思考の5つの脳機能を測っています。

ファイブ・コグの検査	脳の機能	検査の内容
運動	手の運動	数字を口でできるだけ正確に書く
位置判断	注意	上や下の辺りにかかれていた位置が一致しているかを判断して口をつけ、同時に数字をふって行く
単語記憶	記憶	単語を覚えて思い出して紙に書く
視空間認知	視空間認知	図形の枠を置いて、ある時刻をさす針を記入する
動物名想起	言語	動物名をできるだけたくさん想起する
単語記憶	思考	2つの単語に共通する単語を考える

ファイブ・コグ検査結果報告書の数字はどんな意味があるの？

ファイブ・コグ検査の結果報告書には二つの数字が書かれています。右の数字は、その検査でいくつかの項目ができた、実際の点数を表しています。右の数字は、同じ年齢と同じ教育年数を持った人の平均が90点になるように作られています。偏差値と呼ばれるものです。

もし、「得点」が90より低ければ、同年代の人に比べて検査が劣るということになります。「得点」が90より高ければ優れているということになります。また、どの検査で得点が低いのか、高いのかを比べてみる。自分の得意なところと、苦手なところのわかります。

もし、「得点」が 50 未満の検査があれば、注意が必要です。できるだけ、その機能を鍛えよとすることがあります。

効果検定フォーム

エクセルに1回目と2回目のデータを貼り付けると、自動的に対応のあるT検定の結果が表示されます。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
1	名簿ID	施行年月日	運動1回目	並行正答	再生正答	1時合計	言語流暢性	類似合計	名簿ID	施行年月日	運動2回目	並行正答	再生正答	2時合計
2	300080	H15.4.5	39	24	10	7	23	14	300080	H16.4.17	37	25	16	7
3	300099	H15.4.5	24	29	9	6	14	13	300099	H16.4.17	30	32	10	7
4	300110	H15.4.5	35	30	16	6	25	12	300110	H16.4.17	31	32	13	7
5	300146	H15.4.5	16	23	27	6	25	15	300146	H16.4.17	18	25	24	7
6	300206	H15.4.5	40	17	12	5	16	7	300206	H16.4.17	32	22	14	7
7	300227	H15.4.5	36	27	19	6	20	12	300227	H16.4.17	35	33	17	7
8	300228	H15.4.5	29	20	19	7	21							
9	300229	H15.4.5	31	25	18	7	11							
10	300241	H15.4.5	25	28	21	7	14							
11	300242	H15.4.5	33	29	17	7	21							
12	300302	H15.4.5	29	20	23	6	11							
13	300321	H15.4.5	25	13	12	6	11							
14	300338	H15.4.5	22	24	14	6	21							
15	300340	H15.4.5	24	8	11	7	11							
16	300345	H15.4.5	28	36	17	7	21							
17	300354	H15.4.5	18	24	17	6	11							
18	*****	H16.4.21	**	**	**	**	**							
19														
20														
21														

ファイブコグ

高齢者用集団認知検査

NPO
認知症予防
サポートセンター



ファイブコグ

ファイブコグは高齢者用の集団認知検査として東京都老人総合研究所と筑波大学精神医学によって開発された検査です。



検査の概要

- 用途** 高齢者の認知機能の水準や認知機能の変化を測定する。例：軽度認知障害のスクリーニングやプログラムの効果評価
- 検査対象** 65歳から85歳未満の高齢者
- 検査内容** 記憶、注意、言語、視空間認知、思考の5つの認知領域と手先の運動機能を測定する
- 信頼性** .706～.851（再テスト法による）
- 妥当性** .637～.703（新規に開発した記憶、注意、思考課題の基準妥当性）
- 実施方法** スクリーンやモニターによる映像・音声で刺激や教示を提示する。被験者はテスト用紙に反応を鉛筆で記入する。
- 実施可能対象者数** 一度に、1名～100名程度
- 実施時間** 約45分
- 評価得点** 年齢、教育年数、性別で調整した偏差値

実施用ビデオ

ファイブコグ実施用ビデオは、検査の刺激提示と教示のすべてをビデオ化したもので、スクリーンやモニターにそれを再生するだけで検査の実施ができます。

価格：27,000円（消費税込）
内容：実施用DVD・マニュアル・テスト用紙1部
CD（検査結果入力用エクセルフォーム・効果検定用エクセルフォーム・テスト用紙原本・報告書の解説原本等）

テスト用紙は1部118円（税込）で販売しています。

問い合わせ先：NPO 認知症予防サポートセンター
Eメール：iiyobou@amber.plala.or.jp
ホームページ <http://www.iiyobou.org/>

特徴

軽度認知障害レベルに敏感

従来の高齢者を対象とした一般成人用認知機能検査では、軽度認知障害のレベルを判別することが難しく、また、認知症のスクリーニング検査では高いレベルの認知機能の評価が困難です。ファイブコグは軽度認知障害のレベルから高いレベルまでの幅広い測定が可能です。

年齢、教育で調整した偏差値

認知機能は、年齢や教育年数、性別によって大きく影響されます。真の能力を評価するためには、それらの影響を調整した上で能力を評価することが必要です。ファイブコグは65歳から84歳までの800人のデータにもとづいて、年齢や教育年数、性別で調整した偏差値が得られるようになっています。このことによって、個人の認知機能の能力の相対的レベルが評価できるだけでなく、個人内の変化が確かなものであるかどうかを判断することが可能になりました。

ひとりでも100人でも検査可能

ファイブコグは、スクリーンやモニターを使って刺激を提示しますので、サポートする要員を配置することによって、一度に大勢の被験者を対象に実施することができます。このような実施の方法でも信頼性が高いデータが得られます。したがって、検査コストが非常に安く済みます。

検査の流れとツール

準備

DVD やVHSのビデオを使う場合は、再生装置、スクリーン、テレビモニター、ファイブコグ反作用紙、鉛筆、机、椅子、対象者10名あたり1名のサポーターの確保と事前の訓練が必要です。

実施

ビデオを使う場合は、再生装置で刺激を再生します。ビデオを使わない場合は、テスターがパソコンを操作し、口頭で教示を与えます。

採点

マニュアルに沿って比較的簡単に行うことができます。

評価

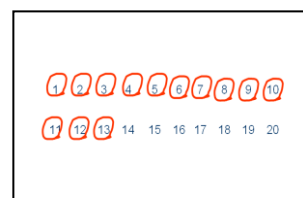
採点した得点を入力すると、自動的に偏差値とスクリーニングのための総合評価が計算されるエクセルソフトが用意されています。上のような検査報告書作成のために、そのデータを差し込むワードのフォームが用意されています。また、認知機能の変化の統計的検定を行うエクセルソフトも用意されていますので、プログラムの効果の検討が容易にできます。

項目	得点	偏差値
運動課題	10	47
記憶課題	8	47
言語課題	7	46
視空間認知課題	8	47
思考課題	8	47

検査の内容

運動

運動課題 手先の運動スピードを測る



15秒間にできるだけ速く数字を○印で囲む課題です。手先の運動に問題があるために、認知課題ができないのかをチェックする機能も持っています。運動課題得点が特に低い場合は、運動に関わる脳の障害の可能性がります。

記憶

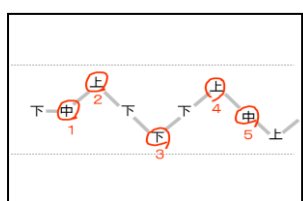
手がかり再生課題 エピソード記憶を測る



手がかりとなるカテゴリーと一緒に32個の単語を記憶し、カテゴリーをヒントに覚えた単語を書き出す課題です。認知症になる前の軽度認知障害の段階では、エピソード記憶の機能が低下します。

注意

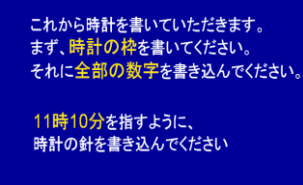
文字位置照合課題 注意分割機能を測る



上中下の文字と文字が書かれた位置が一致するものに○印を付けて、同時に順番に数字を振っていく並行作業の課題です。この課題は注意の切り替えが必要な注意分割課題です。軽度認知障害の段階で特に低下しやすい機能です。

視空間認知

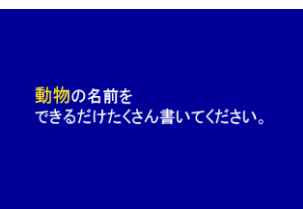
時計描画課題 視空間認知機能を測る



時計の文字盤を描き、それに時刻を表すように針を書き込む課題です。アルツハイマー病では、こうした視覚的構成機能が侵されますので、その判別には有効な検査です。軽度認知障害の段階ではそれほど低下しません。

言語

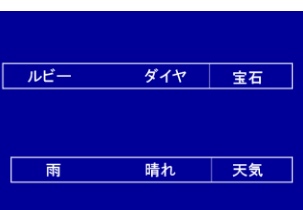
動物名想記課題 言語検索機能を測る



2分間にできるだけ多くの動物名を書き出す課題です。アルツハイマー病では、適切な言葉を引き出す機能が侵されます。この機能も、軽度認知障害の段階では、比較的低下が少ない機能です。

思考

共通単語課題 抽象的思考能力を測る



例えば、ルビーとダイヤという2つの単語から宝石という上位の概念を抽出する課題です。検査は16問からなっています。この能力も、軽度認知障害の段階で低下しやすい機能です。